



1 はじめに

皆様には、日頃より道路インフラの見守り活動にご協力いただき、御礼申し上げます。
 この度、『東京ブリッジサポーター便り』第5号を発行させていただきました。
 未曾有の事態となっているコロナ禍の中、自粛生活や新しい生活様式などで、ご苦勞も
 多いかとお察しいたします。

本稿では、令和元年度にご報告いただいた事例と処置状況をお知らせいたします。

また、コロナ禍が続く状況とは思いますが、外出の際に訪れていただきたい都内の「橋」
 を紹介します。

ぜひ、ご一読いただき、東京の道路インフラの成り立ちや歴史などを感じていただきい
 とと思います。

弊社HPでは『東京ブリッジサポーター』制度を含め、道路アセットマネジメントに係
 る取り組みをご紹介します。

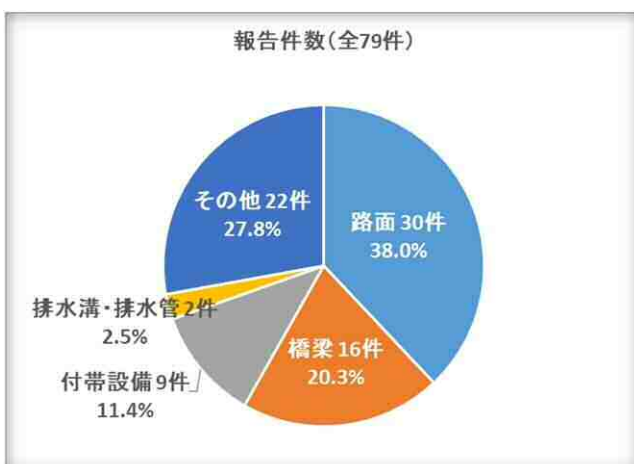
ぜひ、弊社HP【<https://www.tmpc.or.jp/>】をご覧ください。

皆様のご健康とコロナ禍の早期収束を祈念するとともに、引き続き、東京ブリッジサポ
 ーター活動へのご協力をお願い申し上げます。

2 報告事例と処置状況

昨年度は、皆様より79件のご報告をいただき、そのうちの約6割にあたる47件の処置
 が完了しました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

次ページの写真は、昨年度いただいたご報告と処置状況の一例です。東京ブリッジサポ
 ーター活動のご参考にしていただければと思います。



2.1 横断歩道橋の塗装劣化（杉並区堀ノ内）

報告時の状況

処置後の状況



2.2 橋面ブロック舗装の段差（墨田区東駒形）

報告時の状況

処置後の状況



2.3 階段部壁面の落書き（府中市本宿町）

報告時の状況

処置後の状況



2.4 歩車道境界ブロックの破損（品川区北品川）

報告時の状況



処置後の状況



3 東京の橋

今回は、日本橋エリアの著名橋を2橋紹介いたします。まだまだ、気軽に外出するのは難しい状況ですが、買い物等で、お近くにお越しの際に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

◆日本橋



日本橋全景

- 中央区日本橋1丁目～日本橋室町1丁目
- 石造アーチ橋
- 開通：明治44年
- 橋長：49.1m

日本橋は、慶長8年（1603年）に徳川幕府により、初めて橋が架けられました。橋の長さは68m、構造は和式の木橋でした。この江戸時代の橋は、両国の江戸東京博物館に、橋の半分が復元されており、当時の雰囲気を知ることができます。

江戸時代には、橋は老朽化や火事などにより18回架け替えられたといわれていますから、平均すると橋の寿命は、15年ほどだったことになります。

明治時代になると、橋にも西洋の技術が伝わり、明治5年に、方杖型の西洋式の木橋に架け替えられました。この橋は、車道と歩道に分離されていました。

そして、明治44年に現在の石造アーチ橋に架け替えられました。この橋の構造は、純粋な石造アーチ橋ではなく、明治末という

石造アーチ橋からコンクリート橋への移行期に架けられたため、内部にはレンガとコンクリートが充填されているという、ハイブリッド構造になっています。このような構造は、国内に2例（他の1橋は札幌の創成橋）しかない、非常に珍しいものです。

橋の架け替えは、東京市が行い、橋本体の設計は東京市橋梁課の米元晋一技師が、橋面のデザインは官庁建築の雄と呼ばれた妻木頼黄が、麒麟など像の彫刻は東京美術学校の津田信夫と彫刻家の渡辺長男が担当しました。また親柱に刻まれた橋名は、最後の将軍徳川慶喜が揮毫しました。



設計者の米元晋一

橋全体のデザインは、ルネッサンス様式といわれていますが、正面を飾る獅子は、奈良の手向山八幡宮の狛犬がモデル。中央の橋灯を挟む麒麟は中国の伝説上の動物。同じく橋灯には、日本橋が道路元標であることにちなみ、一里塚によく植えられていた榎と松が刻まれるなど、東洋の要素を色濃く取り入れたものになっています。なお、本来麒麟には翼がありません。日本橋の麒麟の翼に見えるものは背びれです。日本橋は、日本全国の道路の出発点。そのため、「旅立つ」というイメージを強く出すために、翼に似せた背びれをデザインしたそうです。

橋には他にも見どころが多く、右岸下流側の橋台には、東京市長以下建設に関わった人の名が刻まれたプレートが設置されています。橋の路面の中央には、「日本国道路元標」と刻まれた50cm角のプレートが設置されています。全国道路の出発点。いわゆる「道路の0マイル」地点標です。この字は、佐藤栄作内閣総理大臣の筆によるものです。昭和47年まで、この場所には、現在三越寄りの橋詰めに建っている「東京市道路元標」と刻まれた鉄柱が建っていました。この鉄柱は、以前ここを通っていた都電の架線柱も兼ねていました。現在、上空には首都高を通っていますが、首都高の2本の橋桁の間には、この道路元標のレプリカも設置されています。

橋の上空に架かる首都高速を地下化するプロジェクトが動き出しています。1日も早く、青空の下に輝く日本橋を見てみたいものだと思います。





正面の獅子像



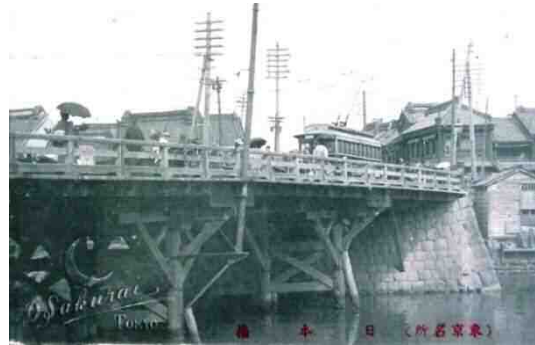
中央の麒麟像と道路元標のレプリカ



徳川慶喜揮毫の橋名板



江戸時代の日本橋の1/2の長さの模型
(江戸東京博物館)



明治5年に架橋された木造の日本橋



麒麟の像



東京市道路元標



首都高に設置された
道路元標のレプリカ



建設関係者の名前が刻まれたプレート



橋中央に設置された日本国道路元標

ときわばし
◆常磐橋



修復が終わった常磐橋

- 千代田区大手町2丁目～中央区日本橋本石町2丁目
- 石造アーチ橋
- 開通：明治10年
- 橋長：32.8m

政府は、都心部に石造アーチ橋を架けるため、この石工集団を呼び寄せます。当時の棟梁は橋本勘五郎といました。明治6年、勘五郎らにより神田川に万世橋と浅草橋が、石造アーチ橋で架けられました。橋は眼鏡橋と呼ばれ、文明開化のシンボルとして、東京の新しい名所になりました。このため、今日でも多くの錦絵が残されています。他の10橋は、彼らに架橋技術を学んだ関東の石工たちにより架けられました。常磐橋もそのうちの1橋で、撤去した小石川御門の石垣の石を用い、明治10年に架けられました。

橋の構造は、江戸時代以来九州で発達した和式の石造アーチ橋ですが、鉄製の欄干や大理石製の親柱のデザインは西洋風という、和洋折衷のいかにも「文明開化期」という建造物です。

常磐橋は、関東大震災により被災しました。また、復興計画でも下流に新しい「常盤橋」を架けることになり、計画からも外れたため、撤去される危機がありました。その時、橋の撤去を救ったのが渋沢栄一です。渋沢は、橋の撤去を惜しみ、東京市に修繕費を寄付しました。合わせて、現在大手町方の橋詰にある常盤橋公園の整備も行いました。この公園には、その渋沢を偲び銅像が建てられています。現在は、常盤橋御門ともども国の史跡に指定されています。

橋は東日本大震災の影響などで損傷したため、再度補修工事を行いました。橋の石を全て取り外し、石ごとにナンバーリングを行い、石の損傷具合に応じて新しい石へ取換えたり、欠けた箇所を補修したりし、再度アーチを組み上げました。その際、以下の①～③の

日本橋の日本銀行本店の前の日本橋川に、常磐橋という古い石造アーチ橋が架かっています。

常磐橋は、江戸時代初期の寛永6年（1629年）、常盤御門の前に架かる橋として、徳川幕府により木桁橋で架設されました。大手筋にあたっていたことから、幕府にとっても重要な橋でした。

明治初期、文明開化期に新政府により、都心部に12橋の石造アーチ橋が架けられました。この橋はその唯一の生き残りです。

幕末には、熊本県や鹿児島県では、すでに多くの石造アーチが建設されていました。その建設を担っていたのが、肥後の種山村の石工集団でした。明治になって新

ような当初建設時には無く、震災復興の補修で付け加えられたものがあることが明らかになりました。

- ①コンクリート造りと思われていた親柱は、国産の大理石製であったこと。その表面をモルタルで補修していたこと。
- ②下流側のカモノハシのくちばしのような水切りの形状は、全く違う形状であったこと。
- ③補修の際、石橋の内部には、モルタルが一部使われたこと。

これらは、今回の補修で、建設当初のものに戻されました。また、中央の橋脚の基礎は、大規模な地震にも対応できるよう補強しました。

石造アーチ橋の移設は九州などに数例ありますが、河川内に造り直したという事例は、この橋を除いてありません。足掛け7年に渡る難工事でしたが、橋本体の工事は概ね終了し、今後は周辺の整備を行って来年4月頃にお披露目をする予定だそうです。2回の震災を生き抜き、今回、強く、そして美しく蘇った常磐橋。渋沢栄一翁もさぞかし、喜んでいただろうでしょう。

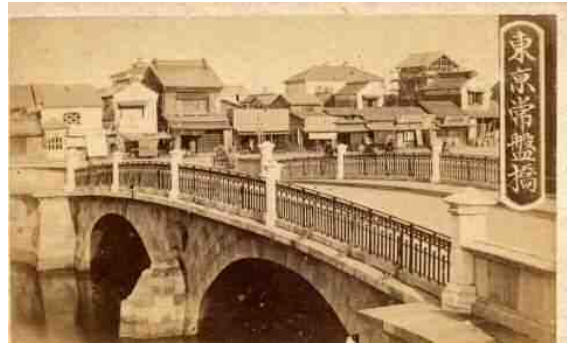


解体工事前の常磐橋（橋脚下部に設けられた、水切りは震災復興で改造されたもの。今回の工事で、オリジナルのものへ取り換えられた。）





明治初年の常盤御門と木造の常盤橋



明治10年頃、架橋直後の常盤橋
(現在日銀が建っている場所には、多くの民家が
が建ち並んでいたことがわかる)



常盤橋解体状況



アーチ石はさほど整形されていない
石で組まれていた



工事以前の西洋風デザインの親柱
(表面のモルタルは、震災復興時の工事で補修されたもの)



常盤橋公園内の渋沢栄一の銅像

◆お問合せ先



公益財団法人 Tokyo Metropolitan Public Corporation for Road Improvement and Management

東京都道路整備保全公社

道路アセットマネジメント推進室

〒163-0720 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 20 階

TEL : 03-5381-3351 FAX : 03-5381-3835 E-mail : douro-am@tmpr.or.jp

